

## 野球指導者の統制的指導に関する研究

1230466 島内優成

指導教員 前田和範

### 研究背景

日本では人口減少の影響を受け、スポーツ人口の減少も危惧されている。それと同時に野球人口の低下が懸念されている。理由としては、指導者の統制的な指導による圧力や髪型を坊主にする文化などが挙げられる。これらによる指導者の行動に問題があるのではないかと、いう点を明らかにする必要がある。

### 研究目的

本研究の目的は、高知県の中学校における野球指導者の統制的行動の現状を明らかにするとともに、その他の野球人口減少要因について検討することを目的とする。

### 研究方法

高知県内の野球指導者 5 名を対象として、統制的行動は必要か、指導スタイル、選手レベルに合わせた指導の工夫、野球人口を維持・増加させるためには何が必要かの計 4 つに関してインタビュー調査を行った。

### 分析結果

統制的行動に関しては、野球人口減少にも影響があるとされていながらも全員が必要という回答があった。また、指導方法に関しては、一人一人が工夫されている面があり、トップダウン指導が主にはなっているが、ボトムアップでの指導も徐々に採用され始めていることも明らかになった。選手のレベルに合わせた指導法の工夫も全員にみられたものの、坊主文化の撤廃などについては否定的な意見が目立った。

### 考察・結論

これらの結果から、統制的行動は指導者側からすると必要と考えられており、特に経験則を基にした指導の際に表れていた。しかし、指導スタイルにも工夫が見られ選手に寄り添いながらの指導、ボトムアップも取り入れながら選手のことも考えた上での指導があった。今後は、指導者が統制的指導を慎みつつ時代に合った指導を展開しつつ、坊主文化の撤廃等、マクロな視点でも野球界を変革していくことで、野球人口の減少も食い止められると考えられる。